

平成28年度試験研究課題の外部専門家との意見交換について

1 開催概要

- (1) 開催日 平成28年7月28日(木)
- (2) 場所 きぼーる15階第4会議室
- (3) 外部専門家 (公財)海洋生物環境研究所 日野 明德 顧問
 (国)東京海洋大学 田中 栄次 教授
 (国研)水産研究・教育機構
 中央水産研究所 野上 欣也 業務推進部長

2 検討課題と主な質疑

(1) 課題名 藻場消失に係る実態調査と原因の推定(事前検討課題)

質疑	応答
<p>藻場の面積の算定はどのようにするのか。 調査海域及び時期の選定理由。</p> <p>藻場消失が食害生物に起因する場合、駆除後の有効利用を検討する必要がある。 基本的には既往知見を参考に進めると良いと思うが、暖海性の魚類の食害に関する有効な対策はあるか。</p>	<p>個体の植生密度ではなく葉体の被度で算定する予定。 比較的漁業者の協力が得られ、危機感を持っている地域。調査時期は、カジメの着底時期に限らず広く実施。 流通加工研究室と連携して取組みたい。</p> <p>刺網で囲って駆除するか、定置網に入った魚を水揚げする程度しかないと考えられる。</p>

(2) 課題名 サバ類のコラーゲン分解機構の解明と品質保持技術の検討(事前検討課題)

質疑	応答
<p>酵素の働きを抑えなくても冷凍技術でカバーできるのではないか。</p> <p>漁獲条件等で物理的な魚体への影響が出るのではないか。 サバを漁獲する漁業は多岐にわたるが、冷凍サバの対象とする漁業は何か。</p>	<p>魚体の品質を保持するためには、漁獲から6時間以内に冷凍する必要があるが、酵素の働きを抑えることで、品質保持時間を延伸できる可能性がある。 影響は考えられる。</p> <p>漁業種類は定置漁業を考えている。</p>

(3) 課題名 房州周辺海域に來遊するカタクチイワシの年齢と発生時期の推定

(事後検討課題)

質疑	応答
<p>非常によくまとまっている。成果をどう活用するかが重要。</p> <p>今後、発生由来が確認できれば、近隣海域でのシラス漁獲状況等により、来遊量の予測が可能になるのではないか。</p> <p>昭和60年代以前の資源減少時、沿岸及び沖合の南北回遊群の状況はどうだったか。</p>	<p>予報の根拠にしたい。今後、海況情報取入れも検討している。</p> <p>既存の九十九里海域以外の周辺サンプルの収集により対応を検討する予定。</p> <p>本日資料を準備していないため、詳細は説明できないが、犬吠以北の漁獲量の経年変化をみると、ある時期から漁獲が著しく減少しているため、今後同様なことが起こることが考えられる。</p>